

## 貴重な土木遺産を再利用した「霞橋」の開通について

～1896年（明治29年）に建設された貴重な鋼トラス橋を新しい霞橋に活用しました～

中区の新山下運河に架かる霞橋（昭和39年完成）は老朽化のため、平成23年12月16日から通行止めとし、架替工事を行なってきました。架替にあたっては、常磐線の隅田川橋りょうとして明治29年に建設され、その後、昭和4年に鶴見区の旧江ヶ崎跨線橋に再利用されたトラスを、ふたたび再利用するという試みで事業を進めてきました。

この度、3月21日（木）正午より開通します。

貴重な土木遺産を再利用することで地域のシンボルになる事が期待されるとともに、地震に強くなり、市民が安心・安全に利用できる橋になります。

**開通に先立ち、当日午前10時より地元自治会の主催で開通式典が行われます。**

※取材を希望する場合は、霞橋の山側へお越し下さい。

### 【新しい霞橋の概要】

所在地：中区新山下一丁目17番1号地先から  
14番1号地先まで

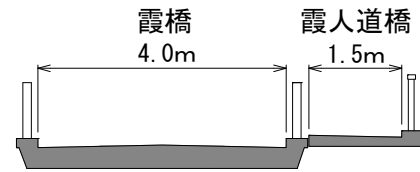
橋長：32.96m

幅員：6.0m（車道4.0m、歩道2.0m）

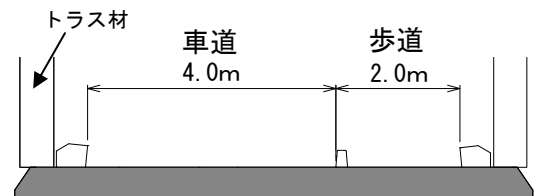
構造形式：下路式プラットトラス

事業期間：平成21年度～平成25年度  
（工事着手：平成23年度）

総事業費：約7億4,000万円



【旧橋の幅員】



【新橋の幅員】

案内図



現在の状況（3/8 現在）



※トラス橋 3本の部材を三角形に連結した構造をトラスといい、これを連続して組み合わせて橋としたものをトラス橋という。

## ～ 参考（プラットトラスの変遷） ～



### 日本鉄道土浦線（現常磐線）隅田川橋梁

1896（明治29）年架橋。

200ft 複線磯城プラットトラス2連と60ft 鉸桁の19連で構成。複線式のプラットトラスは我が国で始めてであったことから、広く外国会社に競争設計され、イギリスの Handy side 社製の200ft プラットトラスが採用された。

200ft スパンの採用や鋼鉄道橋の採用、当時の様式と異なるデザインなど最先端的な橋梁であった。

機関車の荷重増加に伴い、架橋から32年後の1928（昭和3）年に撤去。



### 江ヶ崎跨線橋

1929（昭和4）年、後に東洋一の操車場といわれる新鶴見操車場に、旧隅田川橋梁のプラットトラス2連を移設。

江ヶ崎跨線橋はこのプラットトラス2連と、1895（明治28）竣工の東北本線荒川橋梁100ft 複線式ポニートラス1連、鉸桁1連で構成。

「かながわの橋100選」選定、「鉄の橋百選（土木学会歴史的鋼橋調査小委員会）」、「日本の近代土木遺産（土木学会土木史研究委員会編）」で都道府県指定文化財相当に選定。

2005（平成17）年に新鶴見操車場の再開発計画や、橋梁の管理移管協議が進んだことで架替事業が決定。



そして今、旧隅田川橋梁から旧江ヶ崎跨線橋に引き継がれた橋を霞橋として再生し、この価値のある遺産を未来に引き継ぎます。

### お問い合わせ先

道路局 橋梁課長 菊地 健次 Tel 045-671-2752  
中区中土木事務所副所長 細谷 宗史 Tel 045-641-7681